

「ザ・ジャッジ 賛成?反対?

～討論会をしよう～

葛西 祐介 教諭

「立場を決めて討論しよう」(東京書籍5年)

今年度3回目の研究授業が5年1組で行われました。この授業で身につけさせたい資質・能力は、「相手の立場に立って理由を予想し、それに対する質問を話し合う力」です。論題を「夏休みの宿題の内容は、自分で決めるべきである。」と「5年1組に環境係をつくるべきである。」と2つ設定し、それについて反対か賛成かで各5人ずつの4グループで話し合いを進める授業となりました。指導案検討に参加させていただきましたが、この「論題」はどんなものかいいのかが悩みました。賛成でも反対でも正当な理由を見つけられるものであること、資料や数値が活用できるものであること……。このことは研究協議でも話題にあがりましたが、大切なのは「どちらでもいいや。」にならない、子どもたちが本気になって考えたいと思える論題を設定してあげること、これも「主体的な学び」を実現させる手立ての一つですね。みなさんなら、どんな論題で話し合わせたいですか？

研究協議より

○評価を適時入れていた。 ○身近な題材を論題にしていた。→主体的な学びへ

○複数の付箋からより良いものを選ぶ活動→対話的な学びへ

▼前時までの学習が活かされていない。情報が多すぎた。↓
(効果的な板書にする手立て)・前時のポイントの提示とホワイトボードの効果的活用

▼単元構成が児童の実態に合っていない。

主体的な学び

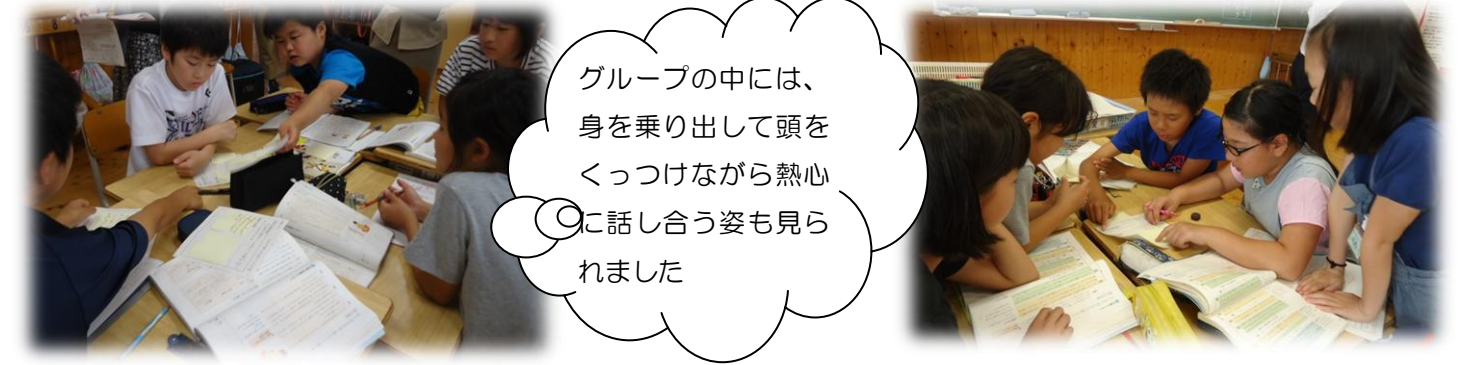
▼課題意識が弱かった。→もっと子どもが本気になれるしかけを！

・相手意識を持たせたり自分の立場を視覚的に分かるようにする。(プレートなど)

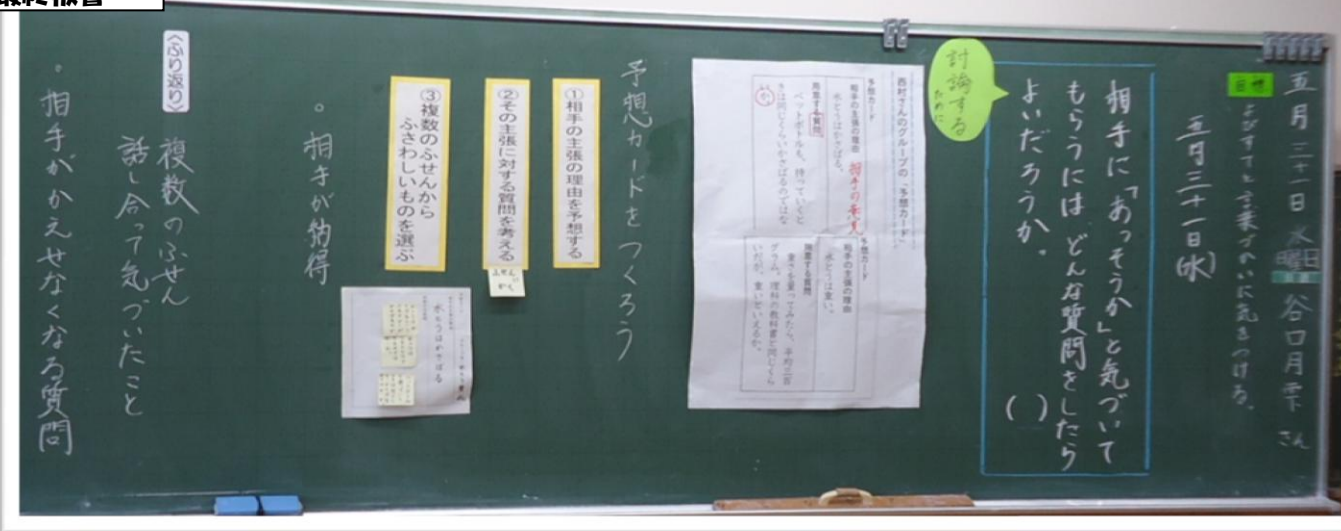
対話的な学び

▼教師がどんな子どもの姿をイメージしていたのか。発問が子どもに伝わっていたのか？

→グループ活動に教師が介入しすぎないこと！子どもに任せる。指示や発問は分かりやすく。



最終板書



葛西先生 授業ありがとうございました。

事後研で、「日々の積み重ねの大切さを感じました」と始めにおっしゃられましたが、葛西先生のリフレクションシートにも「凡事徹底」(当たり前前ことを当たり前前)にやっていくこと・「学習規律」(正しい姿勢・発表する態度・聞く態度)とありました。

実際に授業を作って実践していく中で、見えてくるものがあるのだと思います。今回の授業のリフレクションを生かし、これから日々の授業で大切にしていきたいと思います。

指導主事より

☆評価規準が学習指導要領や国研の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」に示されているものとずれがあった。→再度、何を評価するのか確認する必要

確認事項

★子どもを本気にさせる手立てを仕組む。(～したいと思わせる)

★ペア・グループ学習の時、介入しすぎない。

学習の過程やでき上がりを評価(褒める)→達成感→学ぶ意欲

ノート交流より



今回の校内研では、同じ学年の児童のノートを見合う時間をとりました。日頃実践されているノート指導が、児童のノートから見えてきたのではないのでしょうか。次回の校内研で、「学びのノート〇カ条」を提案します。これに従って、さらにノート指導をお願い致します。

★振り返り → 主体的な学びにつながる

こんな振り返りを書かせたい!

- ・自分の変容 (今までは～だったけれど…この授業で…)
- ・変容の場面や要因 (～のところで・友だちの話から…)
- ・次はこうしたい